



開館30周年

江戸東京博物館
江戸東京たてもの園
のあゆみ 2014-2022



凡例

- 本書は1993年(平成5)に開館・開園した江戸東京博物館、江戸東京たてもの園の開館・開園30周年にあたり、これまでの実績や活動内容をまとめたものである。2014年(平成26)9月30日に「江戸東京博物館 江戸東京たてもの園 20年のあゆみ」(以下、「20年のあゆみ」)を発行しているため、本書の内容は、主に「20年のあゆみ」以降の2014年(平成26)4月1日～2023年(令和5)3月31日までを対象とした。
- 本書では正式名称の「公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館」及び「公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都江戸東京博物館分館江戸東京たてもの園」を省略し、「江戸東京博物館」及び「江戸東京たてもの園」と表記した。
- 年度の表記は、4月1日から翌年3月31日までを当館及び当園の事業年度で行った。例えば、2022年(令和4)度とは、令和4年4月1日～令和5年3月31日をいう。
- 本書での月日表記は、1872年(明治5)以前は旧暦を、以降は新暦を使用した。
- 各事業のデータは各年度に公表している「事業実績」及び各事業に関する配布印刷物などを典拠とした。
- 団体名、個人名で時期により表記の変わるものについては発表当時の表記に依った。各人の肩書についても同様とした。

目次

ごあいさつ 30周年を迎えて	4
藤森照信 [江戸東京博物館 館長]	
江戸東京博物館 江戸東京たてももの園 基本方針	5
年表でみる30年のあゆみ	6
トピックス	10
江戸東京博物館	17
主な事業	
常設展	18
特別展	26
企画展	32
特集展示	39
さまざまな収蔵資料	40
教育普及事業	46
調査研究	48
国際交流事業	49
図書室	51
伝統芸能公演	52
デジタルの活用	53
その他の事業	55
施設紹介	56
江戸東京たてももの園	59
主な事業	
復元建造物の展示	60
復元建造物の管理保全	67
特別展	70
情景再現事業	75
教育普及事業	78
デジタルの活用	79
その他の事業	80
施設紹介	82
事業実績・資料	85



30周年を迎えて

江戸東京博物館は、今年で開館30周年を迎えます。30年という年月は、それぞれの人が自分の人生を振り返ると実感されるように、一つの区切りに相当する長さです。

30年を振り返ってまず湧いてくるのは、“あの時開館しといて良かった”という感慨です。当時は、江戸東京に関わる文物がまださして注目されていなかったのも、今となれば入手不可能な文献資料と美術工芸品などが入ってきましたし、分館の江戸東京たても園に集まっている30棟の歴史的建築群は、今では入手不能です。

店を開いておきさえすれば、品物は集まり、お客さんは入ってくる。30年間、店を開き続けた成果として、今の“江戸博”の高い評価が可能になったのです。

近年のあれこれを振り返ると、三つのことが思い浮かびます。

まずは国際交流です。日本、中国、韓国の四つの歴史博物館（当館、中国北京・首都博物館、韓国・ソウル歴史博物館、中国・瀋陽故宮博物院）が連携し、持ちまわりのシンポジウムを開催し、博物館の活動について意見交換を行ってきました。交流の成果として、例えば、2019年にはソウル歴史博物館が企画した展覧会、「18世紀ソウルの日常—ユマンジュ日記の世界」展の当館での開催があります。200年前の漢陽（現在のソウル特別市）に住む土人（ソンビ）ユマンジュの暮らしや文化の紹介はとても新鮮でした。2022年には江戸博の所蔵する浮世絵や屏風などを使い、江戸の母なる隅田川とその沿岸の風物を見せる「隅田川—江戸時代の都市風景」展をソウル歴史博物館で開催、韓国での浮世絵の本格的な展示はなかったようでたいへん好評でした。

また、パリ日本文化会館で、2022年には「いきもの：江戸東京 動物たちとの暮らし」展を開催しました。展覧会は非常に好評で、図録はフランスの出版社から一般書籍として刊行されています。当館の所蔵品だけで充実した内容の展覧会が可能になったのは、30年間に及ぶ開店の成果に違いありません。

さらに急激に進むデジタル化にも意を注いでおり、30万点以上の収蔵品のデジタル化に取り組み、いつでも画像とデータを入手することのできる目途が立っています。またSNSにも取り組み、館の専門家がさまざまな発信をして館の魅力を世界に広めています。

30年を経て、最大の出来ごとは、建物の大改修とそのための4年間におよぶ休館です。30年すれば、建物の人生も一区切りを迎えるのです。老朽化した設備などを取り替え、展示の一部も大きく変えます。すでに工事は始まっており、館員一同、開館時に増して忙しく動き回っています。

仮オフィスの外に大がかりな足場が組み立てられ、固いものを削る激しい音を聞きながら。

2024年3月吉日

館長
藤森照信

江戸東京博物館 江戸東京たても園

基本方針

1 沿革

東京都江戸東京博物館は、江戸東京の歴史と文化を保存継承しつつ、これからの東京の都市と生活を考える博物館として、平成5年3月に開館した。

江戸東京の歴史と文化、都市の生活と文化に関する都市史専門博物館として、現在、60万点を超える資料や図書を収蔵し、展示、教育普及事業、調査研究等を行っている。

江戸東京たても園は、江戸東京博物館の分館として、平成5年3月、都立小金井公園内に開館した。都市の歴史を振り返るとき、文化の発展のために建築の果たした役割が大きいことから、現地保存が不可能な歴史的・文化的価値の高い建造物を移築・復元し、保存・展示するとともに、貴重な文化遺産として次代に継承することを目的としている。

2 基本的使命

江戸東京博物館は、江戸東京の失われゆく文化遺産を次代に継承するとともに、東京の歴史と文化を振り返ることによって、未来の東京の都市と生活を考える博物館として、「江戸及び東京の歴史と文化に関する資料を収集し、保管し、及び展示して、都民の利用に供するとともに、都民の江戸及び東京の歴史と文化に関する活動並びにそれを通じた交流の場を提供し、もって都民の教養、学術及び文化の発展に寄与する。」ことを目的に設置され、以下を基本的な使命とする。

- (1) 江戸東京の歴史と文化、都市の生活と文化に関する都市史の専門博物館として、資料（建造物を含む。以下「資料」という。）の収集、保管、展示、復元・修復、調査研究、教育普及等を含めた総合的な活動を行い、歴史・文化の継承と発展に努める。
- (2) 江戸東京の失われゆく歴史遺産、有形・無形の文化遺産及び伝統文化を受け継ぎ、次世代の人々に、そして未来の社会に継承していく。
- (3) 400年にわたる“都市”江戸東京の歴史と文化、当時の人々の生活に出会い、学び、伝え、そして、現代と未来の東京を考えていく博物館として、その役割を果たしていく。
- (4) 江戸東京の歴史と文化に関する都民に開かれた生涯学習及び知的交流の場として、また、人々が博物館の諸機能を享受できるような開かれた施設として、都民の教養、学術及び文化の発展に寄与する。
- (5) 江戸東京の歴史と文化を通して、国内及び海外の人々が、文化交流と相互理解を深め、ともに現在と未来を考えていく博物館として、その役割を果たしていく。
- (6) 江戸東京に関する知的集積を十分に活かし、歴史を通して大都市・東京の現在と未来を考えるための、総合的な都市史としての「江戸東京学」の確立と発展に寄与するとともに、生々発展する博物館として、調査研究に努め、その成果を展示等の諸事業に常に活用し、広く発信していく。
- (7) 江戸東京の歴史と文化の発信拠点として、資料の収集、保管、展示、調査研究、教育普及、学習支援等についてセンター的機能を担っていく。

(令和2年1月 東京都生活文化局「業務内容及び管理運営の基準 第2部 東京都江戸東京博物館(分館 江戸東京たても園含む)」より抜粋)